

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科		看護学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名		コミュニケーション学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		1年	学期及び曜時限	前期	教室名	視聴覚室/基礎医学教室
担 当 教 員		渡部 一恵	実務経験とその関連資格			
《授業科目における学習内容》						
看護職におけるコミュニケーションは、円滑な人間関係を築き、信頼関係を構築することによって、対象者やその家族を深く理解することが目的である。そのことにより、 ・対象者やその家族のニーズを把握する ・日常生活援助の糸口を見つける ・寄り添うことで不安や苦しみの軽減を図るなどの援助につながる点でその効果は大きい。また、「チームケア医療」の時代である今、他の医療職との連携は欠かすことのできない状況にある。ケアチーム間での連携がスムーズに運ぶと、対象者を多角的な視点から見ることができ、その結果、高い医療行為が提供できることも指摘されている。以上の点から、看護職のコミュニケーション対象を次の3つに分け、対象に応じたコミュニケーション技術を学んでいく。① 対象者(何らかの健康上の問題から治療やケアを受ける人) ② 対象者の家族(「第2の患者」ともいわれ、家族のあり方そのものが患者に大きな影響を与える存在) ③ ケアチーム はじめに、対人援助職のコミュニケーションに関する基本学習をする。その後、対象者ごとにコミュニケーションに関わる理論を習得し、具体的な事例を通して実践技術の習得を図る。さらには、看護職:①、看護職対:②、看護職:③という関係だけでなく、①②③の間の関係調整やコーディネート的な役割を担う場合がある。その点についても事例で考えを深めていく。						
《成績評価の方法と基準》						
本試験(80%)、レポート(20%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
「人間関係論」医学書院						
《授業外における学習方法》						
対人援助を学ぶために、追体験(作品などを通して他人の体験をたどることにより、自己の体験として捉えること)をしてください。講義中に本や映画などいろいろな作品を紹介します。その中で興味のある作品を鑑賞してほしいと思います。						
《履修に当たっての留意点》						
コミュニケーションを学ぶ際の最終目標は、「わかる」ことだけでなく、「できる」ことにあります。知識の習得と合わせて、現場での実践力を身につけましょう。演習やグループワークを通して、具体的な実践場面で使えるコミュニケーション能力を高めていきましょう。						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本的知識を習得することができる 看護職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる	教科書 資料配布	シラバスを読んで本講義の全体イメージをつかむ	
	各コマにおける授業予定	対人援助におけるコミュニケーションについて考え、イメージすることができる。				
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本的知識を習得することができる 看護職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる	教科書 資料配布	これまでの講義内容を振り返り、まとめる	
	各コマにおける授業予定	対人援助におけるコミュニケーションの役割について考え、説明できる。				
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本的知識を習得することができる 看護職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる	教科書 資料配布	これまでの講義内容を振り返り、まとめる	
	各コマにおける授業予定	対人援助職に求められるコミュニケーション技術の基本を学び、説明できる。				
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本的知識を習得することができる 看護職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる	教科書 資料配布	これまでの講義内容を振り返り、まとめる	
	各コマにおける授業予定	「受容(受け止める)」の大切さを理解し、その効果を説明できる。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本的知識を習得することができる 看護職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる	教科書 資料配布	これまでの講義内容を振り返り、まとめる
		各コマにおける授業予定	「受容(受け止める)」の実践例を知り、よりよい実践のイメージをもつことができる。		
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本的知識を習得することができる 看護職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる	教科書 資料配布	これまでの講義内容を振り返り、まとめる
		各コマにおける授業予定	対象者の心にアプローチする必要がある場合に、どのような実践が望ましく、効果的であるかを説明できる。		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本的知識を習得することができる 看護職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる ケア対象に応じたコミュニケーション技術を演習を通して理解し、実践できる力を身につけることができる	教科書 資料配布	これまでの講義内容を振り返り、まとめる
		各コマにおける授業予定	事例検討を通して対応方法を考え、よりよい実践を目指すことができる。		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本的知識を習得することができる 看護職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる ケア対象に応じたコミュニケーション技術を演習を通して理解し、実践できる力を身につけることができる	教科書 資料配布	これまでの講義内容を振り返り、まとめる
		各コマにおける授業予定	事例検討を通して対応方法を考え、よりよい実践を目指すことができる。		